

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立長等小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度は国語科、算数科で調査が行われました。全国平均値と比較して、国語科で5.3ポイント、算数科で7.6ポイント高い正答率となりました。国語科、算数科ともに、どの領域においても平均を上回る正答率となりました。特に短答式の問題形式では、国語科で12ポイント、算数科で9.4ポイント高い正答率となり、知識が定着していることがうかがえました。一方、無解答率の割合は、選択式、短答式、記述式とも全国、滋賀県と大きく変わらない結果となり、課題が見られました。

《強み・弱み》

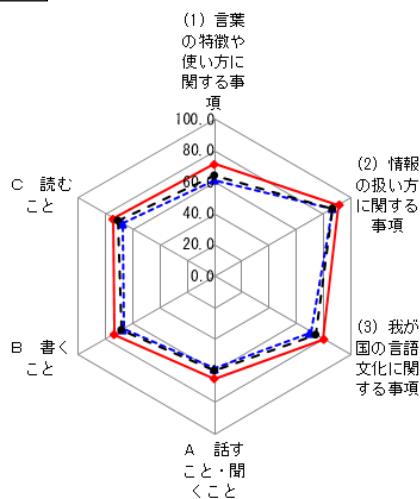
全校で、長等スタンダード学習を実践していることにより、どの領域においても子どもの学力が定着してきていると考えます。また、質問紙調査では「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した子どもは全国平均より8.1ポイント高く、意欲的に学習に取り組んでいることも強みです。一方、授業で自分の考えを伝えることには苦手意識がみられ、本校の弱みであると言えます。

◇学習指導要領の内容の平均正答率の状況◇

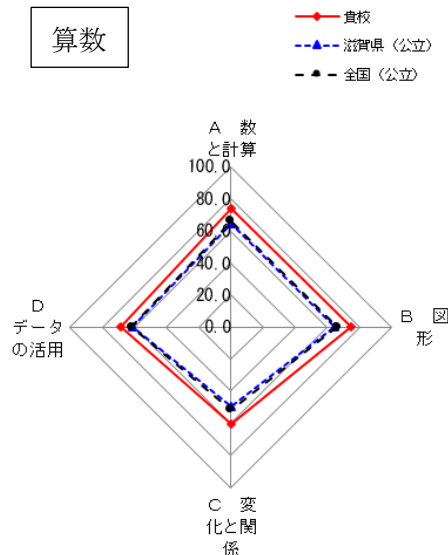
※本校の傾向を見るためのものであり、他校と比較できるものではありません。

(文部科学省からのデータをそのまま掲載しているため、長等小の部分は貴校と表示されています。)

国語



算数



【指導の充実に向けて】

授業では、単元の始めから終わりまで興味を持って取り組めるような「魅力ある問い」を設定し、学習を行います。社会科を例にすると、子どもたちの疑問や予想を基に社会的事象に迫る問いを設定します。その問いに向けた問題解決的な学習を進める中で、ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、対話を生み出すことで学びの深まりを目指します。また、教室での学習が広がりを見せ、子どもが、日常の事物現象と既習事項とのつながりを考察することができるような資質・能力の育成を目指します。

学級会や縦割り活動などの特別活動を推進することで、子どもが互いの良さを認め合い、学校全体に支持的風土が広がることを目指します。